

お客さまからの『おいしかった』がすべて

割烹 かもした



代表取締役 鴨下謙一氏
柏崎市東本町 1-11-36
Tel・Fax 22-2333

旦那様との出会いは？「学生時代のバイト先がかもしたさんで……」

運命的なご縁で一九九六年にご結婚。

一男二女を授かり、大学に進学している上の二人は柏崎を離れている。

趣味は？「バイクとマージャン」

「バイク新潟県人会や水曜日に行う会に所属し、愛車のヤマハVMAXで仲間とツーリングにでかけることも多い」「四四歳で大型免許を取る際には、美幸さんに三つのウソを重ね内緒で勝手に……あの時パチンコで大勝ちしていなければきっと違った趣味だったことだろう」

こだわりは？「フロそうじ」家事全般任せっきりだけど、カビさせない対策で塩素系のシュッシュュすぎで、自分の気分が悪くなることもあったり、リフォームまで構想するほど。

ターニングポイントは？「三三歳のタイミングで先代が他界され代表を引き継いだ。幸いにも当時の板長が継続して腕を振るってくれたのですごく助かったそう。『このヒット』人徳』だけはあるみたいで……なんか？色々まわりの人が活かしてくれて乗り切ってきているんです」と美幸さん。

その人徳から今年度より「柏崎鮮魚商協同組合」の理事長を務める。他の要職もセットとなり、外出する機会が増える傾向。宴席や宿泊を伴う場合でもできるだけ出席しておきたい謙一氏とお断りするケースがあつてもいいのでは？と感じる美幸さん。二人の立場のちがいがから少しズレが生じてしまう現状のよう。

将来は？「日本料理の業界は職人さん不足が深刻で、若者はカッコよさそうなパティシエなどに目が向いてしまう」「あわせて商売をしている家に女将さんになる『覚悟』をもつて嫁いでもらうハードルも非常に高く、事業承継には嫁問題も」「兄弟や家族経営で成り立つ小規模だからこそが逆に戦略になる」と考えている。

「お客さまからの『おいしかった』がすべて」と話すご夫妻からは板長さん&板前さんとともに鮮度と味で勝負していく【志】が感じられる取材となった。（編集委員◎若取材）



八月下旬朝晩秋めいてきた頃、市内東本町の有限会社かもしたを訪ね、代表取締役 鴨下謙一氏と奥さまの美幸さんから話をお聴きした。謙一氏は一九六九年生まれ、市内東本町出身で柏崎小・一中・新潟産大附属高を卒業されている。

どんな子ども時代？の問いに「町の公園で野球！」部活は？「中学がサッカー部、高校で陸上部に転向」「一年間で『やり投げ』をなげやりな感じでやめちゃったんでしょ」と美幸さんからのツッコミ……

高校卒業後、長岡にある料亭「かも川別館」さんに三年間お世話になりながら、北陸学園調理師専門学校に通って調理師免許を取得する。

一九九一年五月から柏崎に戻り、割烹「かもした」にて現場の経験を積んだ。